川崎市青少年科学館紀要(19)；65-66 (2008)

川崎市黒川の耕作地付近で得られた2種のゾウムシ上科甲虫

（その食草と伝統的土地利用に注目して）

雛倉　正人*

Two unrecorded weevils from Kawasaki City

(Relationship between their host plants and traditional land use in farming)

Masato Hinakura*

川崎市北端にある麻生区黒川は、周辺の都市化の中にあって、雑木林や谷津田に象徴される、特有の里山景観が残された場所である。今回は、ここで見つかった2種のゾウムシ類について、食草の生育環境に注目して述べてみたい。いずれも隣の横浜市から記録があるが(平野, 2004)、なかなか川崎では発見できなかった。

採集記録

・アザミホソクチゾウムシ *Piezotrachelus japonicum* (Roelofs)　(ホソクチゾウムシ科; Apionidae)

1ex. 川崎市麻生区黒川, 8. V. 2007. 筆者採集（写真1）.

栗や柿などの果樹畑の付近で、路傍草地のキツネアザミ *Hemistepta lyrata* Bunge から得た。

・アオバネサルゾウムシ *Heorhynchus ibukianus* (Hustache) (ゾウムシ科; Curculionidae)

2exs. 同地, 8. V. 2007. 筆者採集（写真2, 3）.

水田の畦道脇に自生するイヌガラシ類 *Rorippa* sp.(近似種があるので属留めとしておく)から得た。

標本は川崎市青少年科学館に保管されている。

また、アザミホソクチゾウムシの近隣地域（東京都）における観察記録も紹介しておく。

多数. 町田市小野路町（図師小野路歴史環境保全地域万松寺谷戸）. 2. V. 2007. 筆者観察（写真4）.

当地は採集禁止の場所なので、生態写真で記録しておくが、キツネアザミの茎に産卵する習性と、青黒い金属光沢から、近似種との区別は間違いないものと思われる。食草は、水田と樹林の間の裾刈り地に豊富に生えており、食草上で、花に止まっていたり交尾する個体がいくつも見られた。

イヌガラシもキツネアザミも、見方によればありふれた雑草であるが、自然の状態に任せておけば、やがて丈の高い草本やつる植物が密生し、消えてしまうものであろう。前者は河川敷、後者は宅地造成地で見かけることもあるが、掲題のゾウムシ類は、市内のこうした環境では発見できなかった。これらを専門に食する昆虫にとっては、長年食草が安定して自生し、農薬散布等の影響も少ない場所が必要である。黒川におけるこれらの種の産出は、当地が、都市近郊において近年まで伝統農業が営まれ、耕作地周辺の草地植生が人手によって維持されてきた数少ない場所であることを示唆している。

参考文献

平野幸彦, 2004. コウチュウ目. 神奈川県昆虫誌 II, 神奈川昆虫談話会, 小田原: 335-835.

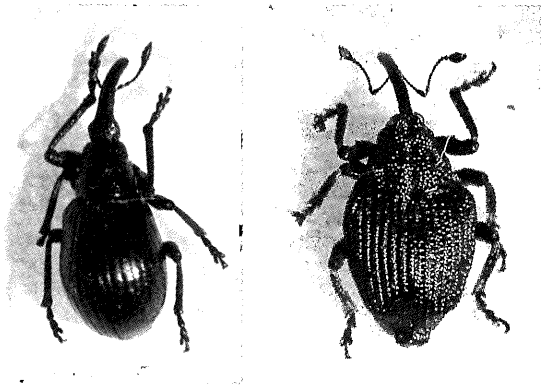

写真1(左) アザミホソクチゾウムシ
写真2(右) アオバネサルゾウムシ（共に川崎産標本）

写真3

イヌガラシ類の葉裏にいるアオバネサルゾウムシ
(穴は食痕・川崎市黒川にて)

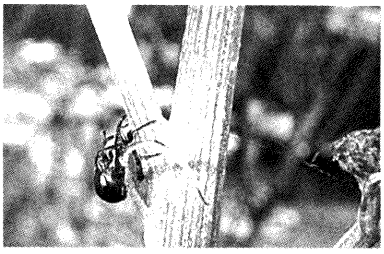

写真4

キツネアザミの茎に止まって交尾するアザミホソクチゾウムシ(町田市小野路町にて)

*特定非営利活動法人かわさき自然調査団